

## スペイン語

高垣 敏博

(1) 彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる。

a. Él siempre come mientras lee el periódico.

He always eats while he reads the newspaper

b. Él siempre come leyendo el periódico.

He always eats reading the newspaper

(a)接続詞(同時動作を表す *mientras* = *while*) + 定形動詞 *lee* (読む: 習慣)でもよいし, (b) *leer* の現在分詞(*leyendo*)を用いて動詞を修飾する表現も可能である。

(2) (私は) 昨日は 10 時に家に帰って, 少しテレビを見て (から), 寝ました。

Ayer volví a casa a las diez, vi la televisión un rato y me acosté.

Yesterday I came back home at ten, watched TV for a while and went to bed.

継起的な動作は, 定形動詞の並列で表現するのが一般的。3つの文のどれかが主節であると判断できないかぎり, ほかの2文を準動詞形によって修飾するのはむずかしいだろう。

(3) (私は) 昨日階段で転んで, ケガをしてしまった。

a. Ayer me caí por la escalera y me hice daño (me lastimé)<sup>1</sup>

Yesterday I fell down the stairs and hurt myself.

b. Como me caí en la escalera ayer, me hice daño.

As I fell down the stairs, I hurt myself.

c. Caído en la escalera ayer, me hice daño.

Fallen down the stairs, I hurt myself.

(a)定形動詞の2文を継起させる。また, (b)理由の接続詞(*como*)により定形動詞の2文を継的に用いる, あるいは(c)のように転ぶ(*caerse*)という自動詞を過去分詞=準動詞形にして主節を修飾する3つの方法が可能であろう。

(4) 今日も父は会社に行って, 兄は大学に行った。

Hoy como siempre mi padre fue a la oficina, y mi hermano (fue) a la universidad.

Today as usual my father went to the office and my brother (went) to the university

---

<sup>1</sup> 例文のチェックはスペイン出身の Arturo Varón 氏にお願いした。

ともに定形動詞の2文継続の形でしか表現できないであろう。動詞は過去(fue)でも現在完了(ha ido)でもよい。

(5) (あの人は)今日は帽子をかぶって歩いていた。

(Él) andaba hoy con el sombrero puesto.

(He) was walking today with the hat put (on)

<前置詞 con (=with) + 帽子+かぶる (ponerse) の過去分詞>で「帽子がかぶられている」という結果状態を付帯的に表現している。「かぶって」は非限界的にとらえられるかもしれないが、スペイン語の「かぶっている」は ponerse = "put on" のような限界動詞を過去分詞にすることによって結果状態が持続することを表す。

(6) (私は)休みの日はいつも本を読んだり、テレビを見たりしています。

a. En las vacaciones leo libros y veo la televisión.

On holidays I read books and watch TV.

b. Siempre (yo) paso los días de descanso leyendo libros y viendo la televisión.

Always I pass holidays reading books and watching TV.

(a)のように定形動詞を接続詞でつなげるのが普通であるが、(b)のように「休日を過ごす」という主動詞を設けるなら、ともに準動詞として平行して主動詞を修飾させることも可能である。

(7) 時間がないから、急いで行こう。

Como no tenemos tiempo, démonos prisa.

As we have no time, let's hurry.

スペイン語ではカラとノデの違いは認めにくい。理由の接続詞(como = as)と定形動詞の組み合わせになるだろう。

(8) 昨日は頭が痛かったので、いつもより早く寝ました。

Como me dolía mucho la cabeza ayer, me acosté más temprano (que de costumbre).

As I had a bad headache yesterday, I went to bed earlier (than usual)

ノデの場合も同じように理由の接続詞 como + 定形動詞が適切であろう。

(8) あの人は本を買いに行った。

(Él) fue (ha ido) a comprar libros.

He went (has gone) to buy books

「～しに行く」は<ir a +動詞>の組み合わせになる。目的を表す前置詞は一般的に

para であるので、<動詞+ para+ 不定詞>となるべきところである。実際「話すために電話する」であれば *llamar para hablar* となる。しかし、たしかに移動動詞との組み合わせでは基本的に方向を表すと考えられる a をとることがわかる。例) *venir a* + 不定詞「～しに来る」、*salir a* + 不定詞「～しに出かける」、*volver a* + 不定詞「～しにもどる、再び～する」、*acudir a* + 不定詞「～しにかけつける」。その一方で *sentarse a* + 不定詞「座って～する」というような組み合わせもあり、さらに調べてみる必要がある。

(9) (彼は) 外が良く見えるように窓を開けた。

*(Él) abrió la ventana para ver bien fuera (el exterior).*

He opened the window to see well outside

*Él abrió la ventana para que se viera bien el exterior.*

He opened the window so that the outside could be seen well

目的部分を節にすると「外部がよりよく見られるべく」という副詞節になり、節内の動詞は接続法をとる。目的節内の命題（外部がよく見えること）は開けるまでは未実現の内容であるため不確実性の接続法をとると一般的に説明される。

(10) ここでは夏になると、よく雨が降ります。

*Aquí cuando llega el verano llueve mucho.*

Here when the summer comes, (it) rains much

*Aquí en verano llueve mucho.*

Here in summer (it) rains much

このような条件文は、スペイン語では本来の条件文にはなりにくいだろう。「夏が到来すると＝したとき」のように時間関係にもちこむのが一般的ではなかろうか。この点、つぎの(11)と差が認められない。

(11) 窓を開けると、冷たい風が入って来た。

*Cuando abrí la ventana, entró aire frío.*

When I opened the window, cold air entered

この場合は典型的に時間の関係で表現するだろう。

(12) 坂を上ると、海が見えた。

*Cuando subí la cuesta, pude ver el mar.*

When I went up the slope, I could see the sea.

(13) 明日雨が降ったら、私はそこに行かない。

**Si llueve mañana, no voy allí.**

If it rains tomorrow, I do not go there.

典型的な条件文となる。スペイン語では接続詞 **si = if** を用いる。

(14) もっと早く起きればよかったなあ。

**¡Ojalá me hubiera levantado más temprano!**

I wish I had got up earlier

反実仮想であるとともに、スペイン語では祈願文の一種に分類される「～であれかし」には<Ojala +接続法過去ないしは接続法過去完了>の表現を用いる。接続法過去は現在の事実に反する内容、接続法過去完了は過去の事実に反する内容を仮想する。(14)は過去時にすでに起こったことに対する反実仮想であるため接続法過去完了 (hubiera+過去分詞) が用いられている。

(15) あんなどころに行かなければよかった。

**No debía (debería) haber ido allí (a tal sitio).**

I should not have gone there (to such place).

<「～すべき」の助動詞 **deber** を未完了過去ないしは過去未来 (おおよそ英語の **should** に相当) + 「行く」の不定詞の完了形>で”**should not have gone**”に似た過去に成立した事態への義務を表す。「～しなければ、よかった」と前件、後件に分けると不自然なスペイン語になるだろう。

(17) 1 に 1 を足せば、2 になる。

**Uno y uno son dos.**

One and one is two

一般的な真理はやはり直説法現在で表す。日常的なレベルで、例えば、親が子供に教えているような場面ではつぎのように条件文で説明することもあるだろう。

**Si sumas uno a uno, tienes dos.**

If you add one to one, you have two

またスペイン語の慣用的な言い方としてつぎのようなものがある。

**Uno más uno, dos.**

One plus one, two

(18) 駅に着いたら電話をしてください。

**Cuando llegues a la estación, llámame.**

When you get to the station, call me.

働きかけがあっても、ときの接続詞 **cuando** を使って時間関係にもち込むのが一般的。ただし、話している時点より後で起こるため、従属節の内容は不確実になると考え、接続法(**llegues**)を用いる。

(19) 日曜日になったら、みんなで公園に行きたいなあ。

**Queríamos ir juntos al parque el domingo.**

We would like to go together to the park on Sunday

**Me gustaría ir al parque con todos el domingo.**

I would like to go to the park with everybody on Sunday

「行きたいなあ」は種々表現が可能であろうが、ここでは過去未来形(**queríamos = we would like to...**)を用いて「できることなら」の感じを出している。問題は、「日曜日になったら」を節にする表現がスペイン語にはなじまないということである。名詞句による簡略形の「日曜日に」(**el domingo**)を用いざるをえないだろう。

(20) 明日雨が降ったら困るなあ。

**¡Ojalá no llueva mañana!**

I wish it does not rain tomorrow

すでに(14)で見た **¡Ojalá...!** を用いるのが一番近い表現になるだろう。さもないならば、「雨が降ったとしたら、困ったことになるだろう」と、仮定+帰結の2文構成になってしまうだろう。それではコンパクトな「心配法的」ニュアンスが損なわれてしまうことになる。

ただ、**¡Ojalá...!** を用いるが、(14)のように動詞が接続法過去（ないしは過去完了）ではなく、接続法現在になる。接続法現在は、同じ祈願文であっても反実仮想ではなく、困難ではあるが、実現可能な願望を表す。「明日天気になあれ」に相当する意味である。

(21) 家に来るなら、電話をしてから来てください。

**Si vienes a casa, llámame antes (de antemano).**

If you come to (my) house, call me beforehand

スペイン語ではこのタイプも *si* の条件文になる。

(22) [もうすぐベルが鳴るので] 鳴ったら、教えてください。

**Quando suene el timbre, avísame.**

When the bell rings, let me know

英語の **when** 同様、時間の接続詞 **cuando** が用いられる。発話時点より後で起こる事態について述べているので、不確実性を含むため動詞 **sonar** 「鳴る」の接続法形 **suene** が用いられる。

(23) [もしかしたらベルが鳴るかもしれないので] もし鳴ったら、教えてください。

**Si suena el timbre, avísame.**

If the bell rings, let me know

これも英語同様 *si* の副詞節にする。この場合は **cuando** のように接続法ではなく直説法の **suena** にする。

(24) 働かざるもの食うべからず。／働かない者は、食べるべきではない。

**Quien no trabaja, no come.**

Who does not work, does not eat

**Los que no trabajan, no comen.**

Those who do not work, do not eat

スペイン語でも先行詞を内包する関係代名詞 (**quien** ないしは **los que**) を用いて、現在時制で超時的な一般論をつくる。

(25) もう少しお金があったらなあ。

**Si tuviera un poquito más de dinero.**

If I had a little bit of money

**¡Ojalá tuviera un poquito más de dinero!**

I wish I had a little bit of money

(26) これも食べたら？

**¿Qué tal si comes esto también?**

What if you eat this too?

**¿Por qué no comes esto también?**

Why don't you eat this too?

(27) やりたいなら（自分の）好きなようにやれば？

**Si quieres, puedes hacerlo como quieras.**

If you want, you can do it as you like

(28) このコップは落としても割れない.

**Este vaso, aunque se caiga, no se rompe.**

This glass, although it falls, it doesn't break

**Este vaso, si se cae, no se rompe.**

This glass, if it falls, it doesn't break

(29) このリンゴは高かったのに、ちっとも甘くない.

**Esta manzana era cara, pero no es dulce.**

This apple was expensive, but it is not sweet

(30) 彼の家に行ってみたけれども、彼はいなかった.

**Fui a verle a su casa, pero no estaba.**

I went to his house to see him, but he was not (there)

譲歩の接続詞 **aunque** を使うと不適切になる.

?**Aunque fui a su casa a verle, no estaba.**

Although I went to his house to see him, he was not (there)